

第一回 長夜会の報告

無事に第一回長夜会が開催、終了しました。
その中で発表された本を紹介します。

『へんないきもの』 早川いくを 新潮社 2010年

130種類の世にもへんないきものを紹介している本。

・紹介しようと思った理由

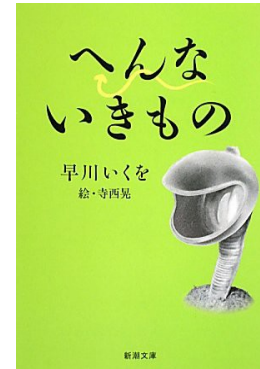
滋賀大学はDS学部ができたとはいえ、文系色が強く、生物に興味を持っている人間が少ない。不思議がたくさんあって魅力的な生物の世界をみんなに知ってもらいたかった。

・その本の魅力

皆が知っているラッコからツノカゲまでさまざまないきものが紹介されている。見開き1ページで1匹の生物が紹介されるという構成で、サクサク読める。てきと一なところからも読める。イラストもついていて、みんなで読んでも楽しい。

・特におすすめの部分

プラナリア



『死神の精度』 伊坂幸太郎 文藝春秋 2008年

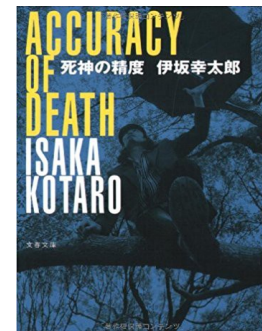
一週間後に死ぬ予定の人間を調査して、死ぬのにふさわしいかどうかを判断することが仕事の死神が主人公。死神から見た人間が描かれている。

・その本を読んだ理由

中学生の時、先生紹介のおすすめ本に名前があったため。でも読んだのは高校生になってから。「あんな本あったなー」と思って読んでみた。

・その本の魅力

クールで、ちょっとズレてて、ミュージックが大好きな本作の死神。多くの人がイメージする死神(骸骨で、大きな鎌を持ってて……)とは何やら違う。「死」を扱う物語ではあるが、重くなりすぎず、読みやすい。死神と人間の噛み合っていない会話が魅力的。



『ふがいない僕は空を見た』 窪美澄 新潮社 2012年

主婦と関係を持つ高校生、不妊治療をせまられる女性。平凡な人間たちが結びついて、その内にあるどろどろした気持ちを浮かび上がらせていく。

・その本を読んだ理由
友達に紹介されたため。

・その本の魅力

人の情けない部分が曝け出されている。民度の低さすらも窺える人間の愚かさに魅力を感じた。恋愛をする前に読んで欲しい一冊。



『鬼の女房』 田辺聖子 角川書店 2013年

日本の王朝時代に出没する鬼たちの話。特に恋愛に絡んだ話が多い。浮気中に鬼が現れ、浮気相手に奥さんがいることバラされてしまったり。

・紹介しようと思った理由

たくさん考察を重ねていくような小説も良いけど、楽しく読めて笑える小説を今回は紹介したかったから。

・その本の魅力

昔から鬼は人間の心に巣食うものであり、人間の心から生まれるものとされてきた。そして、人間は鬼よりも恐ろしい。それがコミカルに描かれていて面白い。短編連作でサクッと読める。

